

第2章 津市の子どもと子育て家庭を取り巻く現状

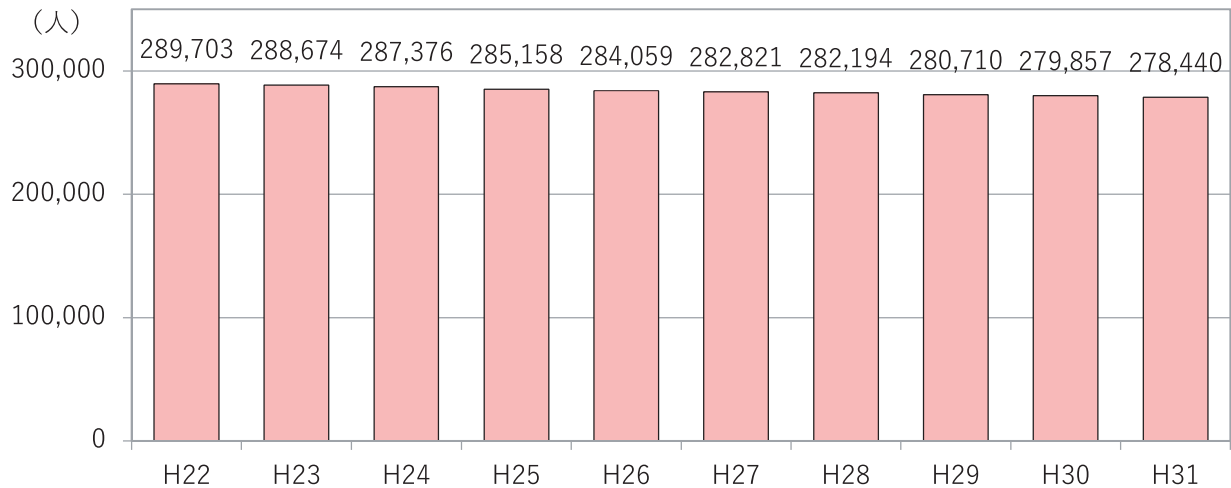
1. 子どもと子育て世帯を中心とした人口の動向及び推計

(1) 人口の推移

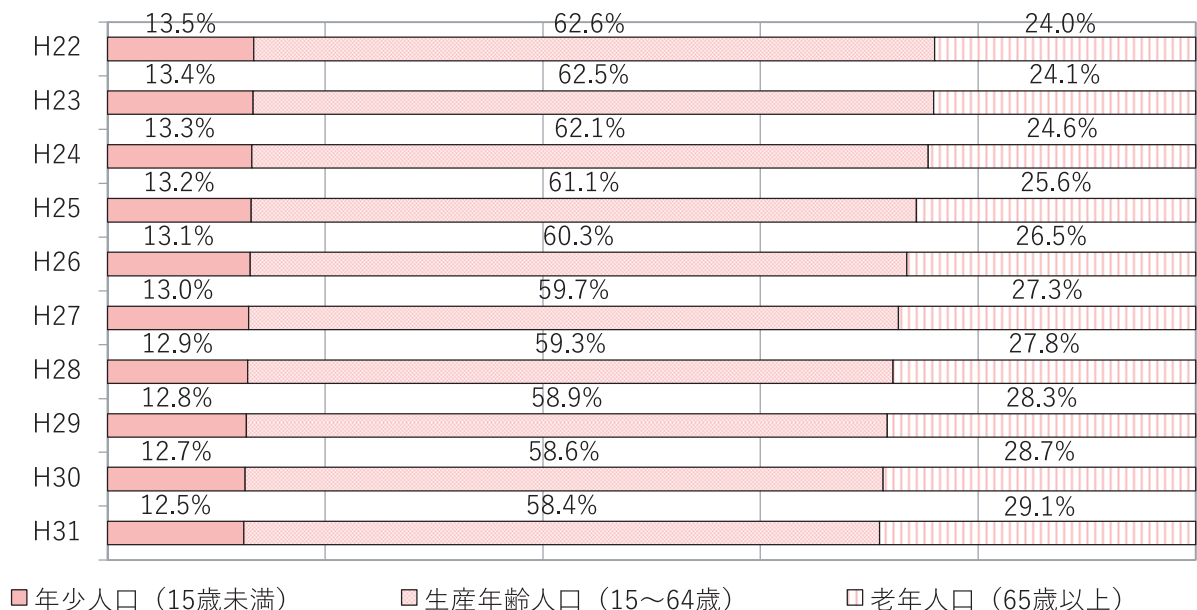
① 総人口・年齢別人口の推移

津市の総人口の推移では、平成22年以降も減少を続け、平成31年時点では11,263人減少し、278,440人となりました。そのうち、15歳未満の年少人口は、平成22年時点で38,970人であったのが平成31年には34,920人に減少しており、年齢3区分別人口比率の推移では、13.5%から12.5%となりました。

◆ 総人口の推移



◆ 年齢3区分別人口比率の推移



資料：住民基本台帳（各年3月31日現在）

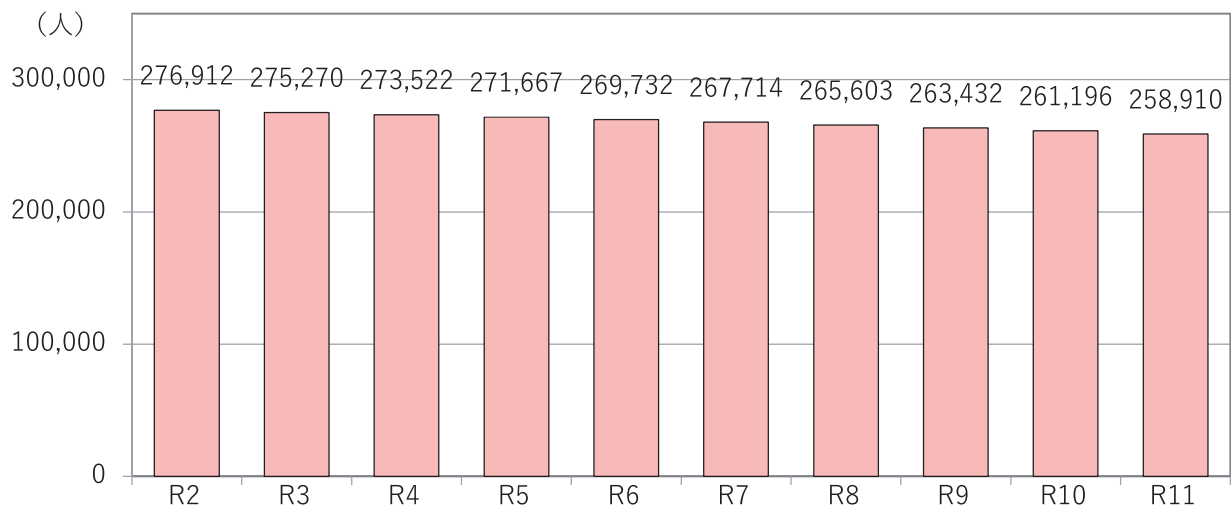
第2章 津市の子どもと子育て家庭を取り巻く現状

② 将来人口・年齢別人口の推計

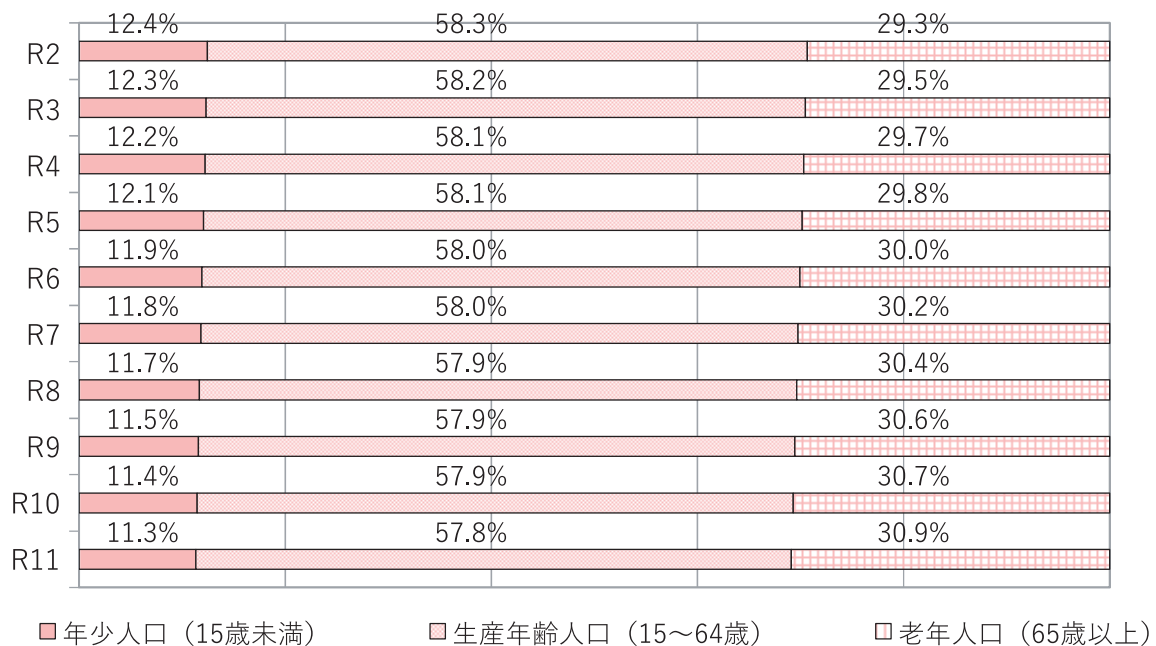
コーホート変化率法によって将来人口を推計すると、令和2年以降も減少が続き、令和11年には令和2年の人口に対して93.5%まで減少することが予測されます。

また、年齢3区分別人口比率の推計をみると、過去10年と同様に年少人口の比率は下降が続く傾向にあり、令和11年には令和2年に対して減少率が14.8%であり、総人口の減少割合6.5%と比較して減少割合がより大きいことが予測されます。

◆ 将来人口の推計



◆ 年齢3区分別人口比率の推計



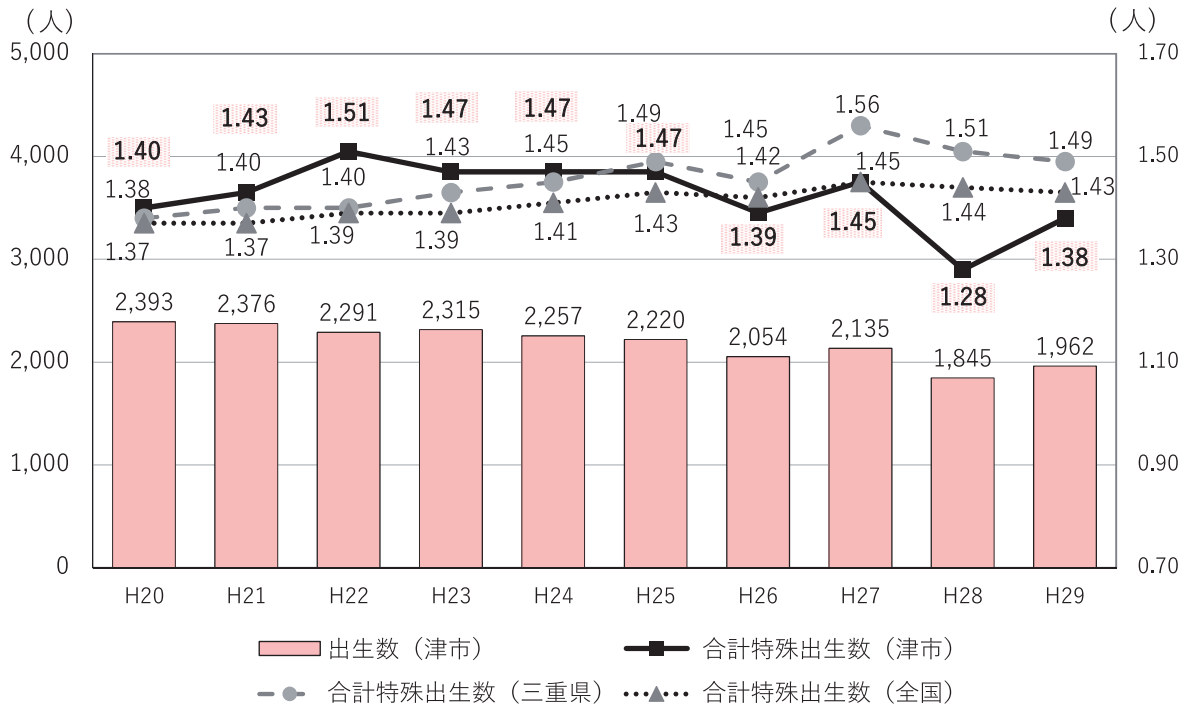
資料：平成25年～平成31年3月31日の住民基本台帳に基づきコーホート変化率法により推計

(2) 出生数の推移

津市の出生数は減少傾向にあり、特に平成28年以降は2,000人を下回っています。

一人の女性が一生のうちに産む子どもの数を示す合計特殊出生率も、津市においては徐々に低下しており、特に平成25年以降は三重県、全国の合計特殊出生率を下回るようになりました。

◆ 出生数と合計特殊出生率の推移



※平成28年の数値(1.28)は、県による厚生労働省への報告漏れがあったため、平成28年9、10月分の出生数を除く数値となります。

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
出生数(津市)	2,393	2,376	2,291	2,315	2,257	2,220	2,054	2,135	1,845	1,962
合計特殊出生数(津市)	1.40	1.43	1.51	1.47	1.47	1.47	1.39	1.45	1.28	1.38
合計特殊出生数(三重県)	1.38	1.40	1.40	1.43	1.45	1.49	1.45	1.56	1.51	1.49
合計特殊出生数(全国)	1.37	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43	1.42	1.45	1.44	1.43

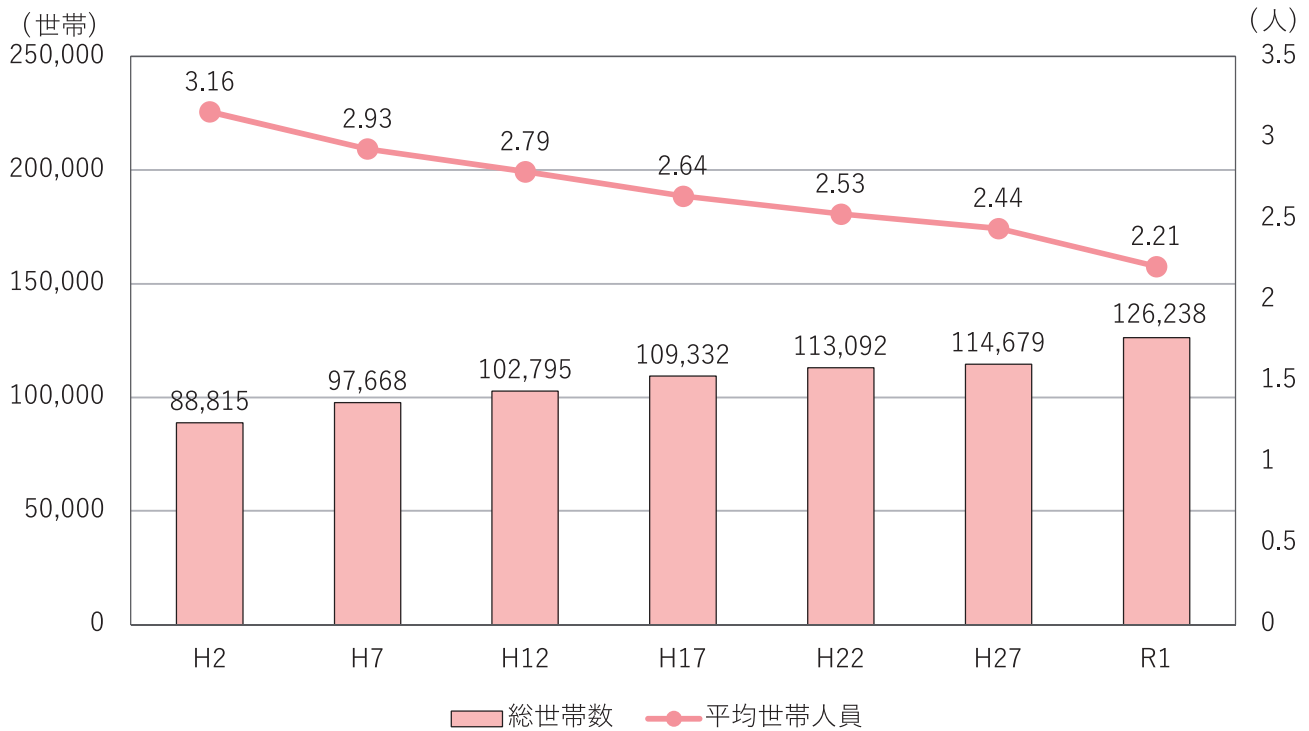
資料：県健康福祉総務課「人口動態総覧」、厚生労働省「人口動態統計」

(3) 世帯の動向

① 世帯数と平均世帯人員の推移

津市の世帯数は増加傾向が続く一方で、平均世帯人員は減少しています。

◆ 世帯数と平均世帯人員の推移

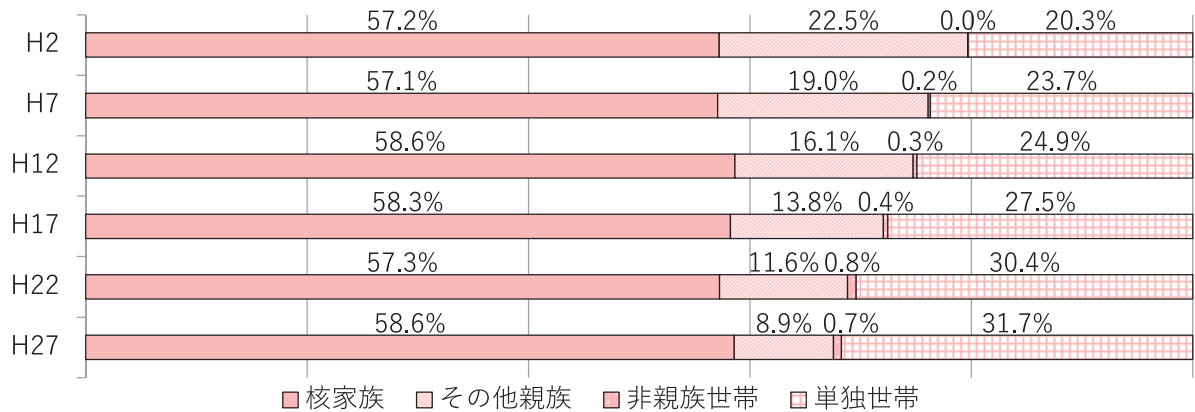


資料：国勢調査（ただし、令和元年は住民基本台帳による6月30日現在の数値）

② 世帯構成の推移

津市の世帯構成では、総世帯数が増加する中で核家族世帯の比率がほぼ一定であることから、核家族世帯数も増加が進んでいるといえます。

◆ 世帯構成の推移



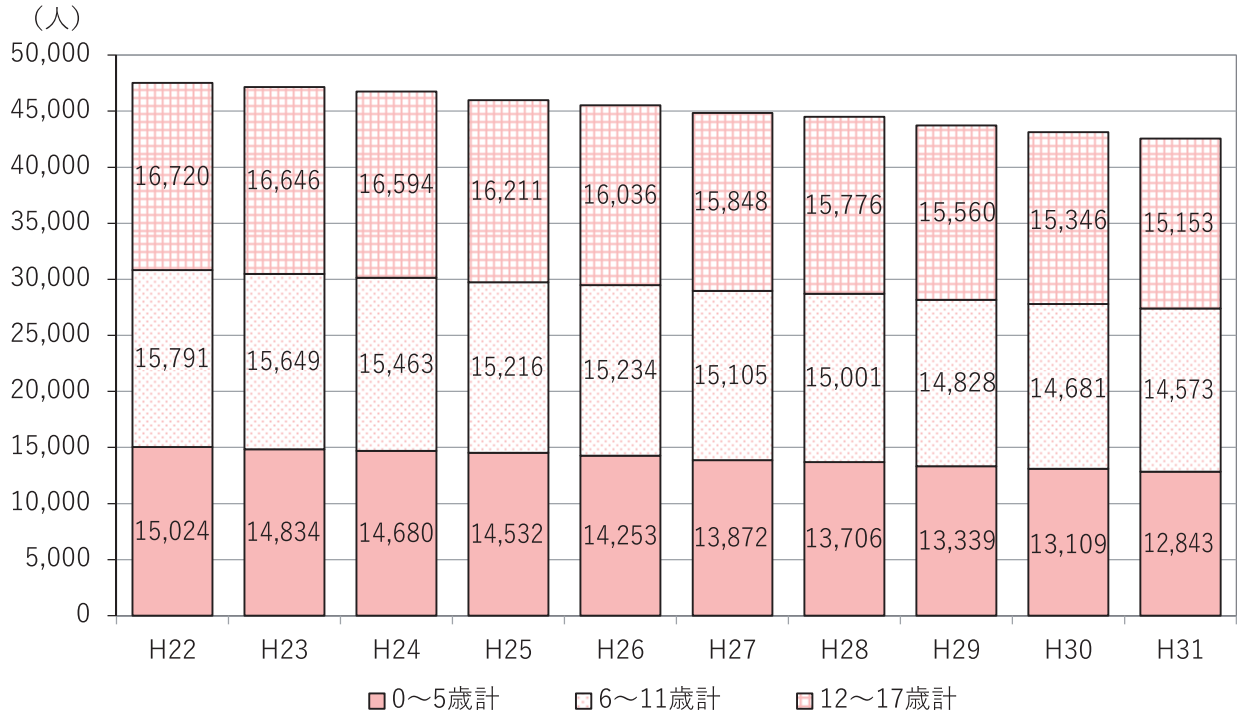
資料：国勢調査

(4) 子どもの人口の推移

① 子どもの人口の推移

子どもの人口の推移は、平成26年以前と同様、平成27年以降も減少が続いています。

◆ 子どもの人口（0～17歳）の推移



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
0歳	2,336	2,344	2,331	2,225	2,194	2,097	2,131	2,025	2,033	1,971
1歳	2,493	2,395	2,431	2,392	2,296	2,250	2,179	2,173	2,112	2,085
2歳	2,568	2,527	2,403	2,412	2,400	2,300	2,261	2,190	2,172	2,131
3歳	2,470	2,575	2,522	2,400	2,406	2,392	2,308	2,255	2,198	2,176
4歳	2,535	2,453	2,563	2,538	2,422	2,415	2,395	2,314	2,282	2,189
5歳	2,622	2,540	2,430	2,565	2,535	2,418	2,432	2,382	2,312	2,291
6歳	2,594	2,614	2,521	2,413	2,556	2,521	2,427	2,409	2,378	2,303
7歳	2,618	2,587	2,597	2,527	2,418	2,535	2,513	2,420	2,412	2,373
8歳	2,578	2,606	2,583	2,587	2,523	2,415	2,548	2,516	2,412	2,417
9歳	2,624	2,574	2,602	2,557	2,590	2,500	2,426	2,539	2,521	2,408
10歳	2,666	2,613	2,563	2,585	2,553	2,576	2,503	2,429	2,536	2,525
11歳	2,711	2,655	2,597	2,547	2,594	2,558	2,584	2,515	2,422	2,547

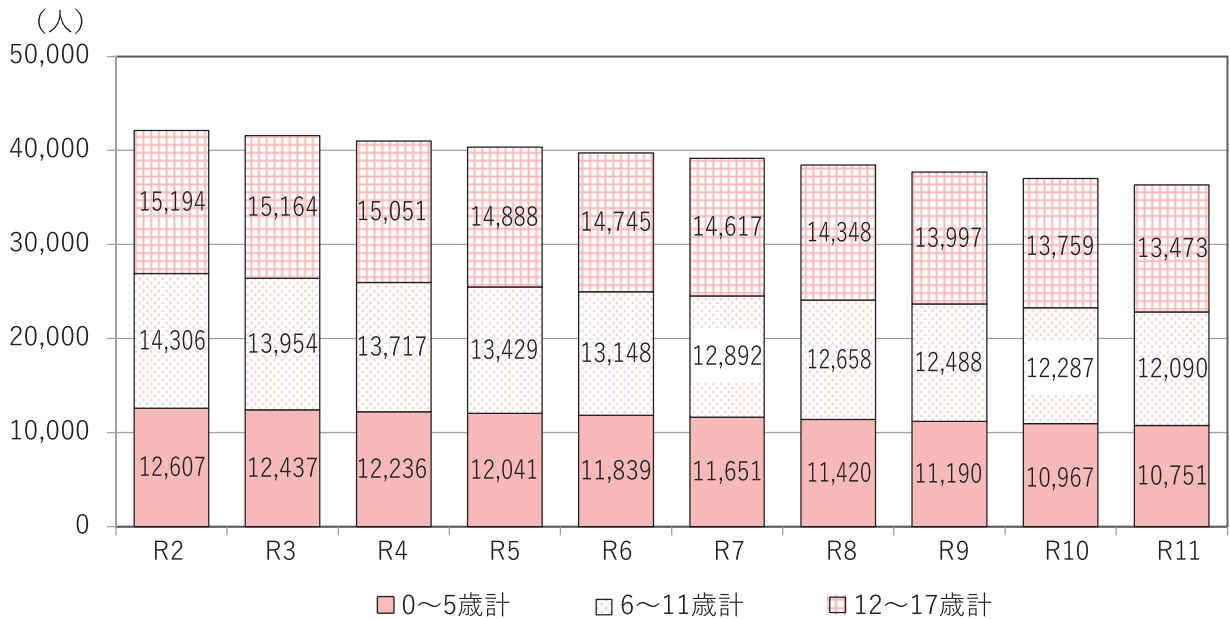
資料：住民基本台帳（各年3月31日現在）

第2章 津市の子どもと子育て家庭を取り巻く現状

② 子どもの人口の推計

コーホート変化率法によって推計する子どもの人口は、今後も減少傾向が続くことが予測されます。また、令和2年から令和11年にかかる減少率は13.8%と推計され、平成22年から平成31年にかかる減少率10.4%より進行しています。

◆ 子どもの人口（0～17歳）の推計



	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
0歳	1,975	1,940	1,906	1,868	1,826	1,790	1,751	1,717	1,689	1,658
1歳	2,032	2,036	2,000	1,965	1,926	1,882	1,846	1,805	1,770	1,741
2歳	2,094	2,041	2,045	2,009	1,973	1,934	1,890	1,854	1,813	1,778
3歳	2,131	2,094	2,041	2,045	2,009	1,973	1,934	1,890	1,854	1,813
4歳	2,185	2,140	2,103	2,050	2,054	2,017	1,981	1,942	1,898	1,862
5歳	2,190	2,186	2,141	2,104	2,051	2,055	2,018	1,982	1,943	1,899
6歳	2,283	2,182	2,178	2,133	2,096	2,045	2,048	2,012	1,976	1,937
7歳	2,298	2,278	2,177	2,173	2,128	2,091	2,040	2,043	2,007	1,971
8歳	2,374	2,299	2,279	2,178	2,174	2,129	2,092	2,041	2,044	2,008
9歳	2,414	2,371	2,296	2,276	2,176	2,172	2,127	2,090	2,039	2,042
10歳	2,406	2,412	2,369	2,294	2,274	2,175	2,170	2,126	2,089	2,038
11歳	2,531	2,412	2,418	2,375	2,300	2,280	2,181	2,176	2,132	2,094

資料：平成25年～平成31年3月31日の住民基本台帳に基づきコーホート変化率法により推計

（５）地域別就学前（０～５歳）人口の推移

地域別の就学前人口推移をみると、一志地域では増加し、その他の地域では減少する傾向にあり、特に、香良洲地域、美杉地域で著しい減少となりました。

	H22 ①	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 ②	②/①
津地域	8,603	8,482	8,423	8,322	8,222	8,038	7,900	7,616	7,429	7,327	85.2%
久居地域	2,669	2,633	2,607	2,603	2,573	2,515	2,551	2,516	2,501	2,413	90.4%
河芸地域	1,113	1,122	1,095	1,075	1,043	1,012	992	986	997	977	87.8%
芸濃地域	442	472	497	498	479	458	453	460	429	414	93.7%
美里地域	152	156	146	139	125	121	121	107	105	103	67.8%
安濃地域	481	483	463	457	456	405	395	379	392	398	82.7%
香良洲地域	262	248	246	230	202	183	163	145	141	128	48.9%
一志地域	759	735	729	739	724	717	723	750	766	776	102.2%
白山地域	461	437	404	406	384	369	363	335	310	278	60.3%
美杉地域	82	66	70	63	45	54	45	45	39	29	35.4%
合計	15,024	14,834	14,680	14,532	14,253	13,872	13,706	13,339	13,109	12,843	85.5%

資料：住民基本台帳（各年３月31日現在）

（６）地域別就学前（０～５歳）人口の推計

コーホート変化率法によって、地域別の就学前人口推計をみると、減少する傾向にあるものの、一志地域では令和４年まで微増となることが予測されます。

また、令和２年から令和６年にかけての地域別の減少傾向として、市全体では令和２年の人口に対して6.1%の減少のところ、久居地域では2.6%、河芸地域では4.1%と減少が緩やかである一方、美杉地域では30.8%、香良洲地域では18.3%と大幅な減少が予測されます。

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
津地域	7,133	7,010	6,897	6,773	6,662	6,510	6,367	6,223	6,084	5,948
久居地域	2,392	2,385	2,353	2,352	2,330	2,340	2,315	2,292	2,273	2,251
河芸地域	971	963	947	935	931	918	905	890	875	861
芸濃地域	413	410	400	397	379	384	379	373	368	363
美里地域	107	105	97	95	95	92	90	88	85	82
安濃地域	387	382	377	368	345	330	318	308	299	289
香良洲地域	126	120	109	104	103	107	103	99	94	91
一志地域	781	784	786	767	743	725	710	693	677	665
白山地域	273	261	251	234	233	228	217	208	198	188
美杉地域	26	18	19	17	18	18	17	16	15	14
合計	12,607	12,437	12,236	12,041	11,839	11,651	11,420	11,190	10,967	10,751

資料：平成25年～平成31年３月31日の住民基本台帳に基づきコーホート変化率法により推計

2. 全国の就業の状況

(1) 産業人口の動向

全国の就業人口の総数は、男女ともに平成7年をピークとして減少しており、男性においては著しく減少している一方で、女性の減少は緩やかなものとなっています。また、産業分類別でみると、女性では8割近くの人が第3次産業に従事しています。

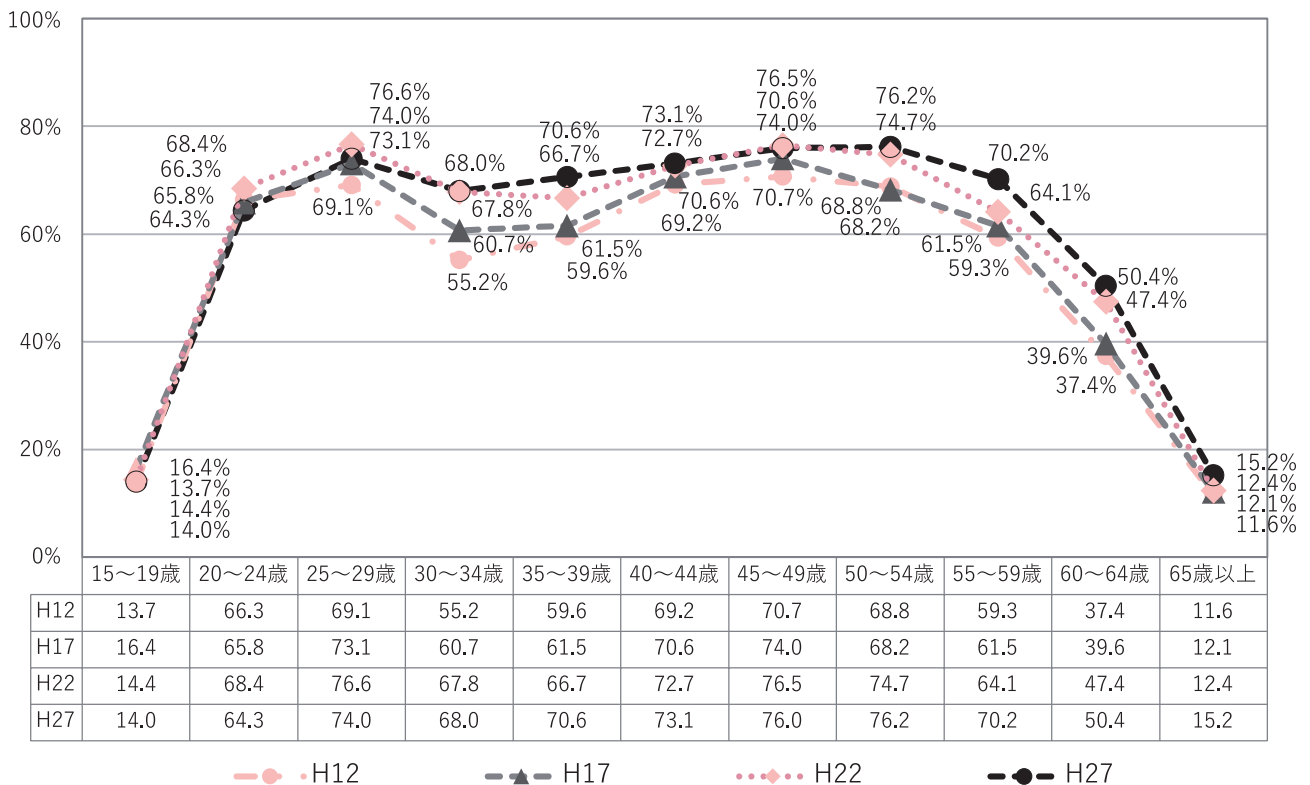
	男性						女性					
	H2	H7	H12	H17	H22	H27	H2	H7	H12	H17	H22	H27
総数(千人)	82,736	86,376	82,575	80,008	76,069	73,284	56,247	59,229	58,756	58,910	58,122	58,307
第1次産業(%)	5.5	5.4	4.2	4.4	3.2	3.2	5.5	4.9	3.6	3.5	2.3	2.1
第2次産業(%)	37.4	37.0	36.6	34.9	33.3	33.5	27.8	24.1	21.9	18.9	16.2	15.6
第3次産業(%)	57.0	64.5	58.6	59.0	58.2	59.5	66.6	73.4	73.9	76.1	76.9	78.4
分類不能(%)	0.1	0.3	0.5	1.7	5.2	3.8	0.2	0.3	0.6	1.5	4.6	3.9

資料：国勢調査

(2) 女性の年齢別労働力率

25歳以上の全ての区分で、平成27年にかけて労働力率が上昇しています。

年齢区分の遷移の形について『M字カーブ』で表現されていましたが、谷にあたる30～34歳、35～39歳の区分において労働力率の上昇が続き、平成27年ではその形は台形に近づいています。



資料：国勢調査

3. アンケート調査結果から見る津市の子どもと子育て家庭の概況

第2期計画の策定にあたっては、第1期計画と同様に、津市内在住の就学前児童及び小学生の保護者を対象に、平成31年1月にアンケート調査を実施しました。

また、調査方法は郵送による配布・回収を基本として、小学生については小学校を通じての回収も可能としました。

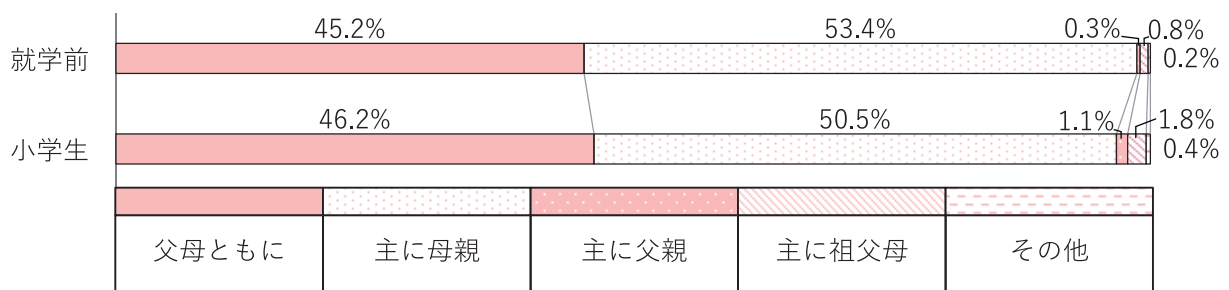
回収結果

調査種別	配布数	有効回収数	有効回収率
就学前児童調査	3,118	1,704	54.7%
小学校児童調査	2,958	1,708	57.7%

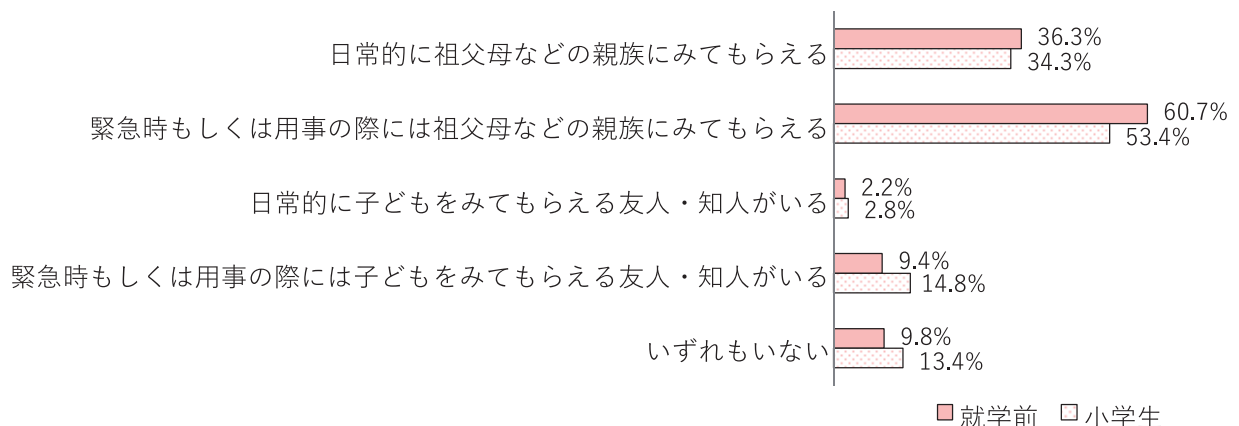
(1) 子育て家庭の状況

アンケート調査からは、主に母親が子育てを行っている家庭が50%を超え、次いで、父母ともに行っている家庭が45%強でした。また、子どもを見てもらえる親族・知人の存在としては、就学前、小学生児童ともに、緊急時等に祖父母などの親族にみてもらえると最も多く回答がありました。一方、いずれもないと回答した家庭が就学前児童で9.8%、小学生児童で13.4%あり、特に小学生児童では前回のアンケート調査結果7.8%より5.6%増加しました。

◆ 子育てを主体的に行っている人【N=1,684(就学前)、1,657(小学生)】



◆ 日頃、子どもを見てもらえる親族・知人の存在【N=1,662(就学前)、1,588(小学生)】



(2) 子育てについて

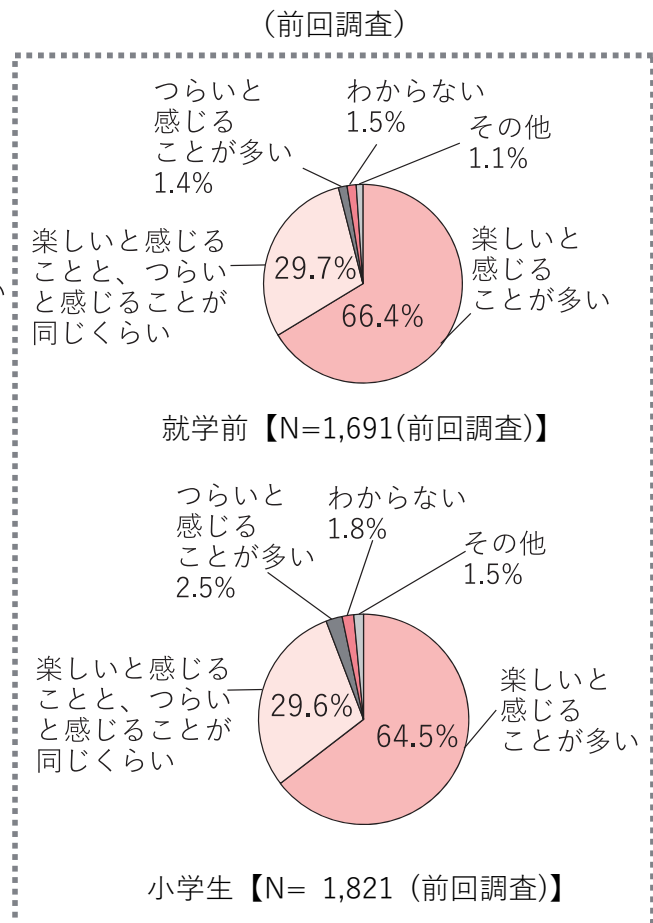
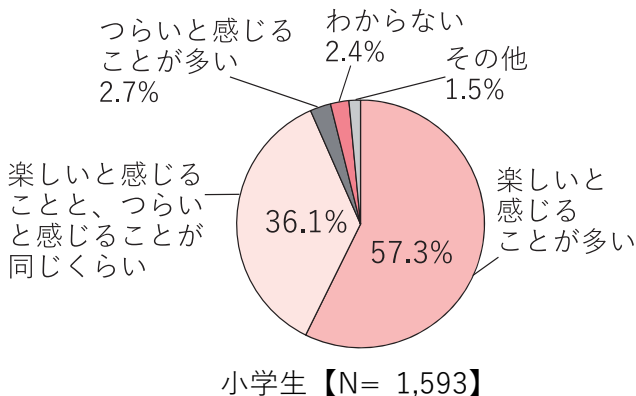
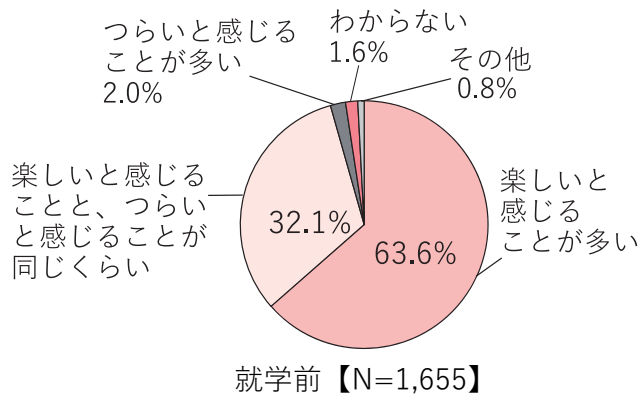
① 子育ての楽しさ

子育ての楽しさについて、「楽しいと感じることが多い」と回答する家庭が就学前、小学生児童ともに最も多く、それぞれ63.6%、57.3%であり、次いで、「楽しいと感じることと、つらいと感じることが同じくらい」と回答した家庭が、それぞれ32.1%、36.1%ありました。

また、就学前児童と小学生児童の家庭で比較をすると、就学前児童の家庭では「楽しいと感じることが多い」と回答した割合が小学生児童の家庭より高くなっています。

さらに、前回のアンケートと比較をすると、「楽しいと感じることが多い」と回答した家庭は、就学前児童で66.4%、小学生児童で64.5%あり、全体的に楽しいと感じることが多いと回答する世帯の割合が減少しています。

◆ 子育てについて感じる事



② 子どもや子育てについて不安や気になっていること

子ども同士の友達関係（仲間はずれ・いじめ）が不安や気になっていることとして最も多く回答があり、前回アンケートと同様の結果でした。

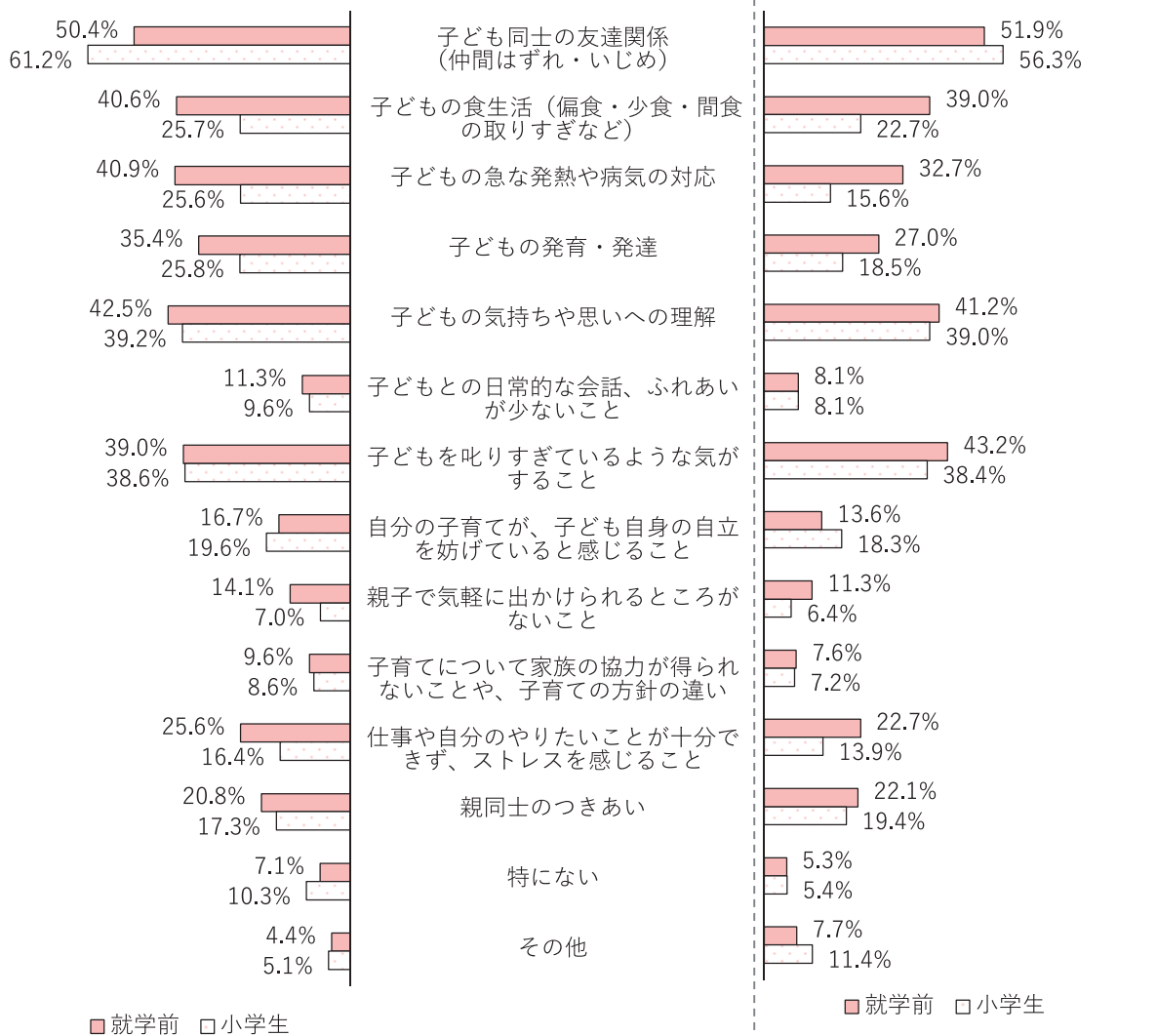
子どもの急な発熱や病気の対応については、前回のアンケートでは、就学前児童で32.7%、小学生児童で15.6%の回答があったところ、今回のアンケートでは40.9%、25.6%といずれもその比率が上がりました。また、子どもの発育・発達についても、前回のアンケートでは、就学前児童で27.0%、小学生児童で18.5%の回答に対して、今回のアンケートでは35.4%、25.8%へとその比率が上がっており、これらのことから、保護者の不安や関心が高まっているようです。

◆ 子どもや子育てについて不安や気になっていること

【N=1,659(就学前)、1,588(小学生)】

【N=1,695(就学前)、1,805(小学生)】

(前回調査)

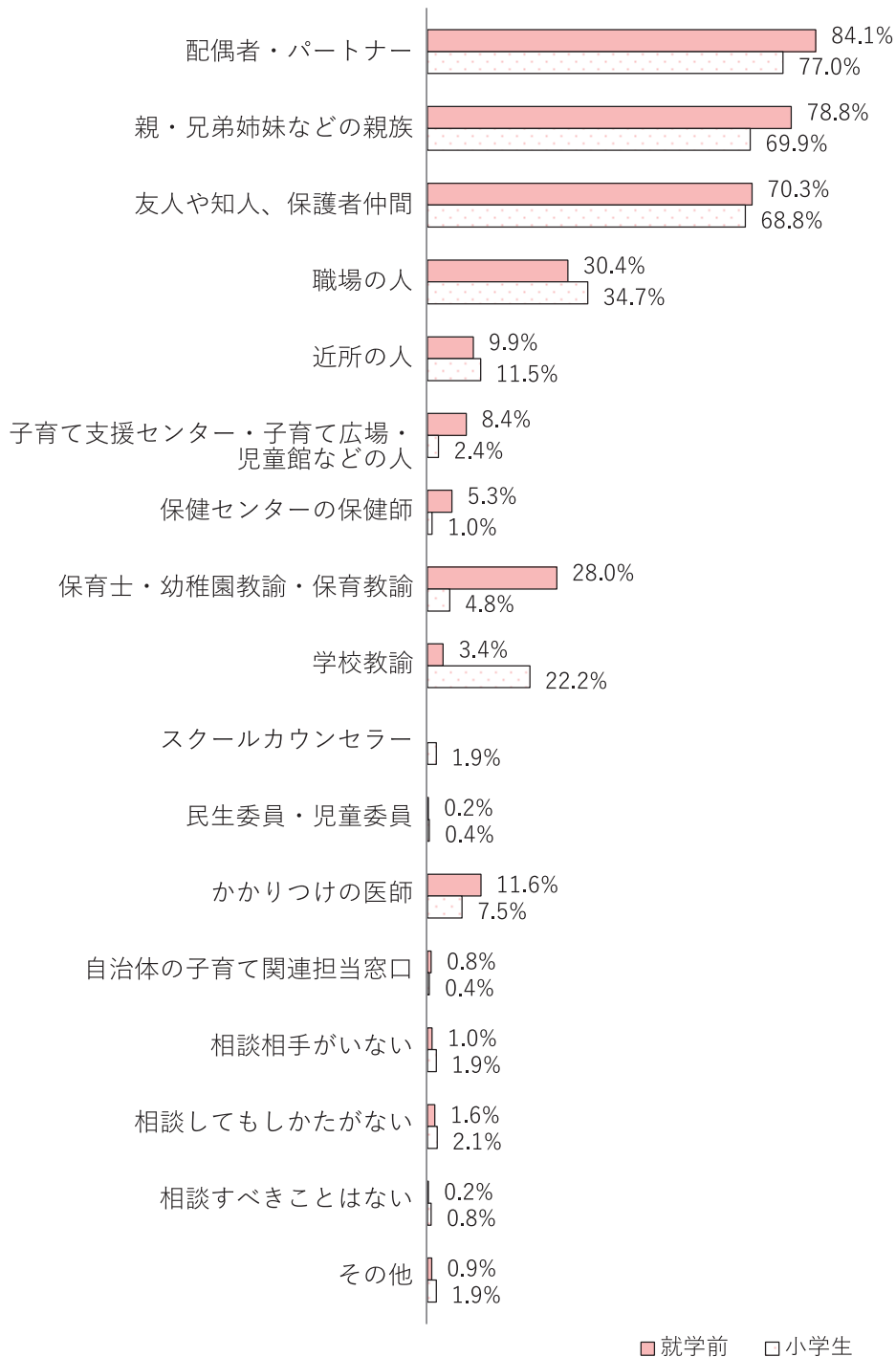


③ 子どもや子育てについて相談できる人

子どもや子育てについて相談できる人として、「配偶者・パートナー」が最も多く、「次いで親・兄弟姉妹などの親族」と回答されました。

前回アンケートの結果と比較して、特に「職場の人」と回答した人の比率が増加しました。（前回就学前児童24.9%、小学生児童30.4%）

◆ 子どもや子育てについて相談できる人【N=1,662(就学前)、1,598(小学生)】

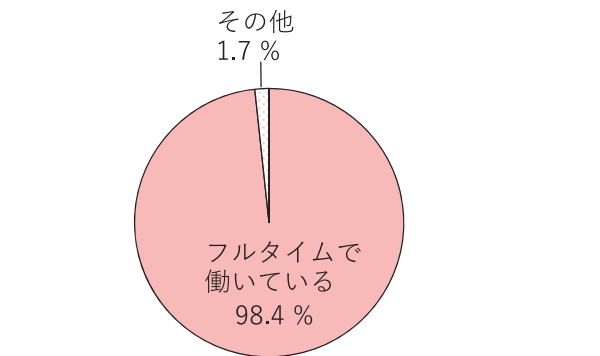


(3) 保護者の就労状況

ほとんどの父親がフルタイムで働いている一方、母親では、産休中等も含めフルタイムで働いている割合は、就学前児童で39.3%、小学生児童で35.0%であり、パート・アルバイトなども含めた母親の就労している割合は、就学前児童で68.0%、小学生児童で81.6%でした。

前回のアンケート調査におけるパート・アルバイトなどを含めた母親の就労割合は、就学前児童で57.7%、小学生児童で73.4%であったことから、5年前と比較して母親の就労が進んでいるといえます。

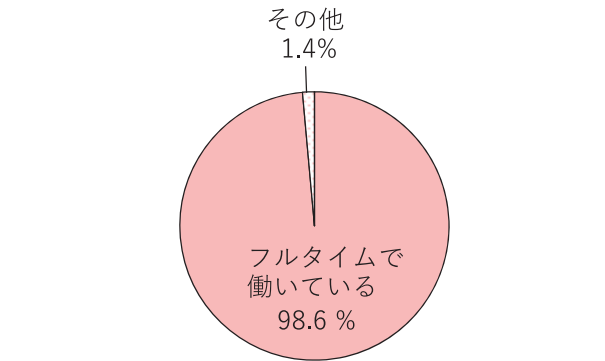
◆ 父親の就労状況【N=1,582(就学前)、1,473(小学生)】



その他の内訳

フルタイムで働いているが、産休・育休・介護休業中である 0.3%
 パート・アルバイトなどで働いている 0.7%
 パート・アルバイトなどで働いているが、産休・育休・介護休業中である 0%
 以前は働いていたが、現在は働いていない 0.7%
 これまで働いたことがない 0%

就学前【N=1,582】

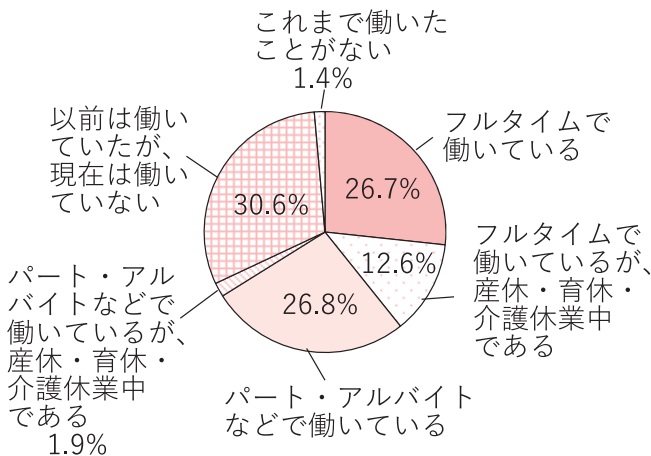


その他の内訳

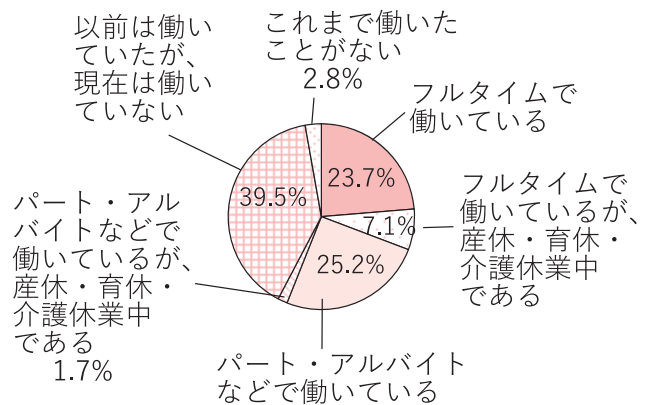
フルタイムで働いているが、産休・育休・介護休業中である 0.2%
 パート・アルバイトなどで働いている 0.7%
 パート・アルバイトなどで働いているが、産休・育休・介護休業中である 0%
 以前は働いていたが、現在は働いていない 0.5%
 これまで働いたことがない 0%

小学生【N=1,473】

◆ 母親の就労状況

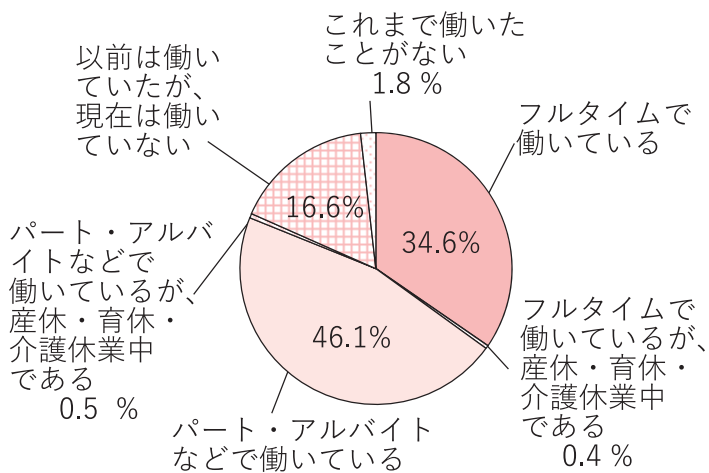


就学前【N=1,658】

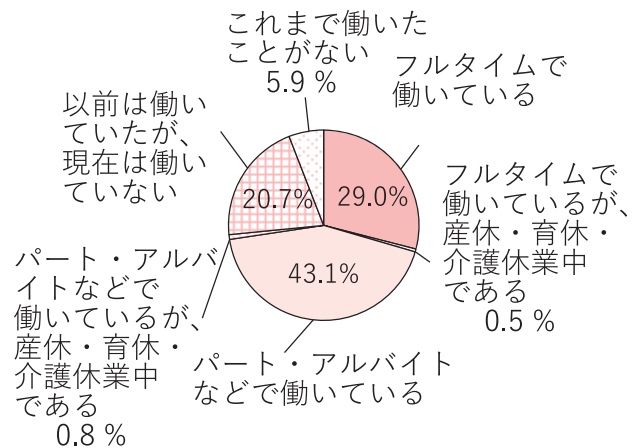


就学前（前回調査）【N=1,682】

第2章 津市の子どもと子育て家庭を取り巻く現状



小学生【N=1,597】

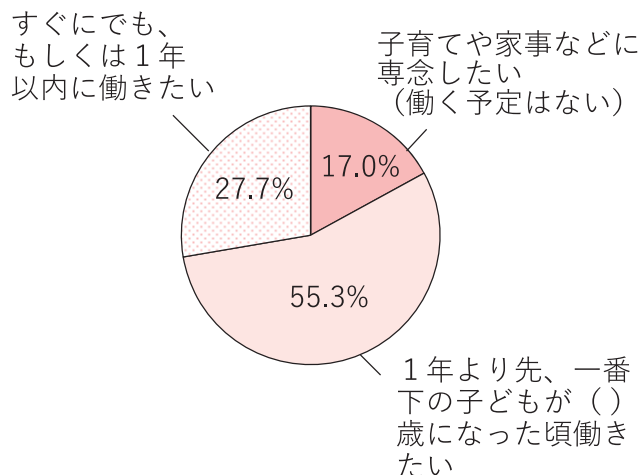


小学生（前回調査）【N=1,718】

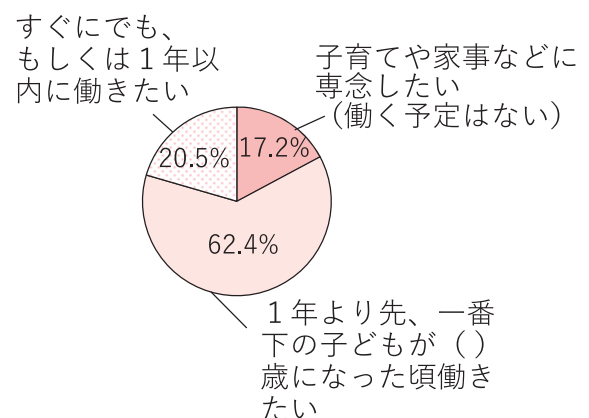
また、現在就労していない母親の将来の就労希望によると、「すぐにでも、もしくは1年以内に働きたい」と考えている母親が、就学前児童で27.7%、小学生児童で32.4%います。

前回アンケートにおける同様の質問に対しては、就学前児童で20.5%、小学生児童で27.2%であり、5年前と比較して近い将来に就労を希望する母親の割合が増加しているといえます。

◆ 現在就労していない母親の将来の就労希望

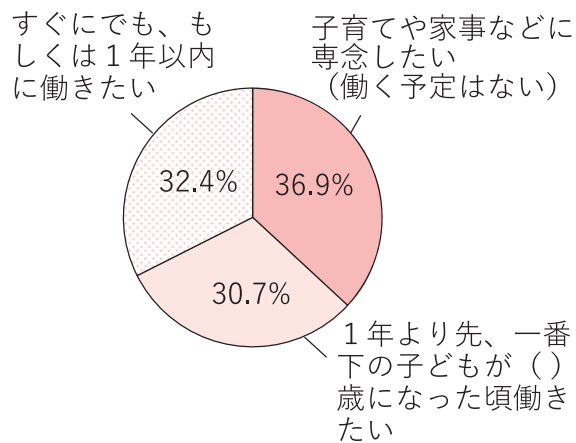


就学前【N=524】

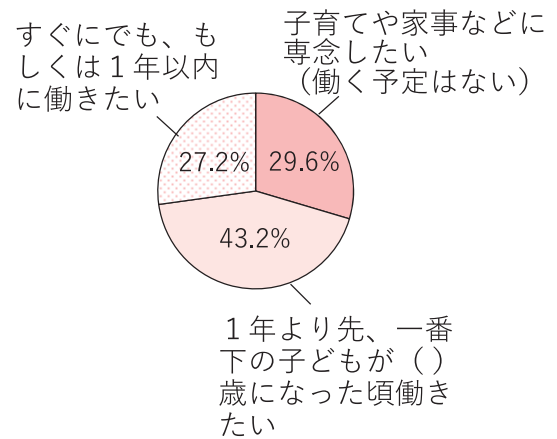


就学前（前回調査）【N=704】

第2章 津市の子どもと子育て家庭を取り巻く現状

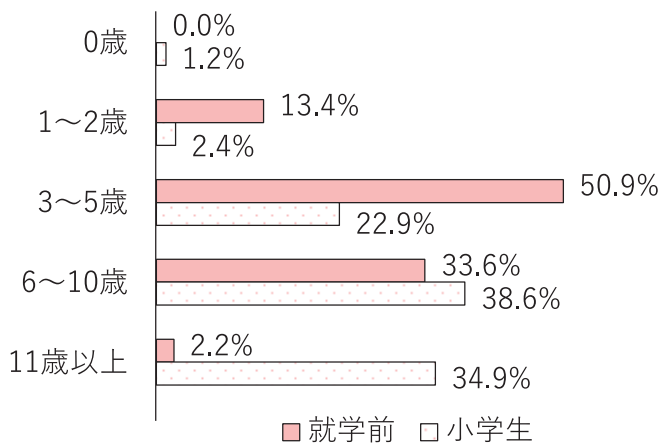


小学生【N=287】



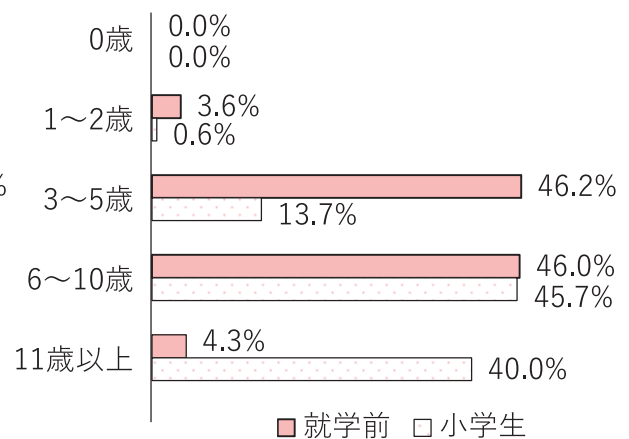
小学生（前回調査）【N=449】

◆ 現在就労していない母親が就労希望する子どもの年齢



就学前【N=277】

小学生【N=83】



就学前（前回調査）【N=422】

小学生（前回調査）【N=175】

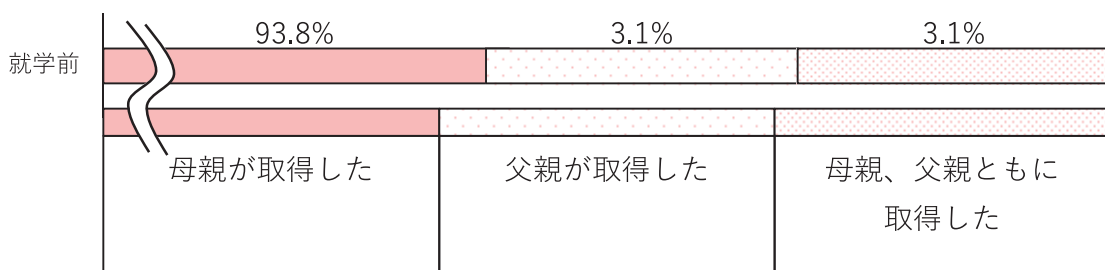
(4) 保護者の育児休業の取得状況

育児休業制度を利用したことがある就学前児童の家庭では、取得者の多くが「母親」と回答しました。

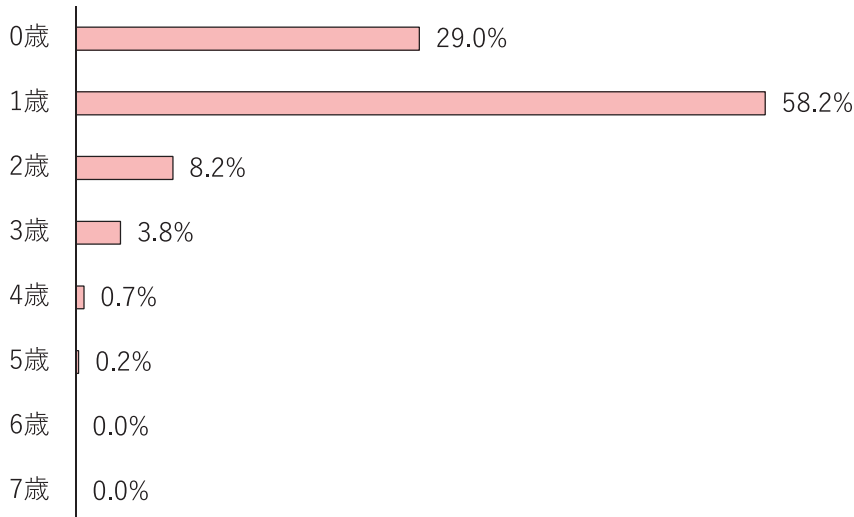
また、取得者の復帰の時期は、子どもの年齢が「1歳」のときに復帰した割合が最も多く58.2%で、次いで「0歳」のときに復帰した割合が多く29.0%でした。

さらに、復帰の時期が希望どおりであったかどうかについては、68.3%が「希望どおり」、31.7%は「希望とは異なっていた」と回答がありました。

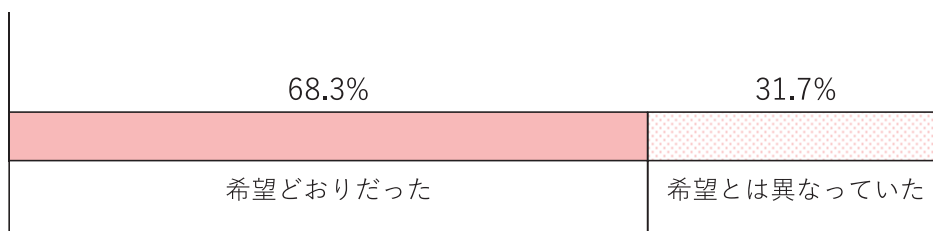
◆ 育児休業の取得者（父か母かともにか）【N=744(就学前)】



◆ 育児休業の「実際」の復帰時期（取得者父母の合計をベース）【N=434(母親)、18(父親)】



◆ 復帰の時期は希望どおりだったか（同上）【N=464(母親)、18(父親)】



(5) 教育・保育事業の利用

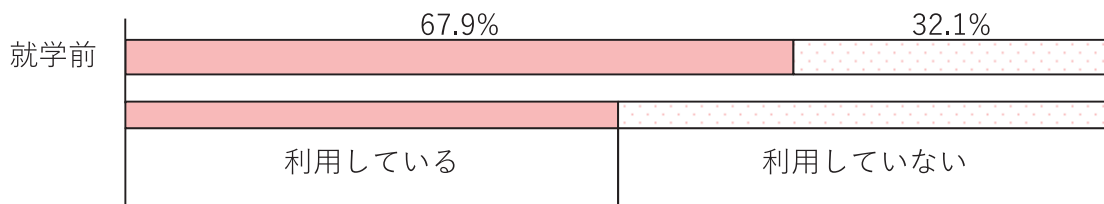
① 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

67.9%の家庭が、「平日定期的に教育・保育事業を利用している」と回答し、その内訳は、多い順に認可保育所、幼稚園、認定こども園でした。

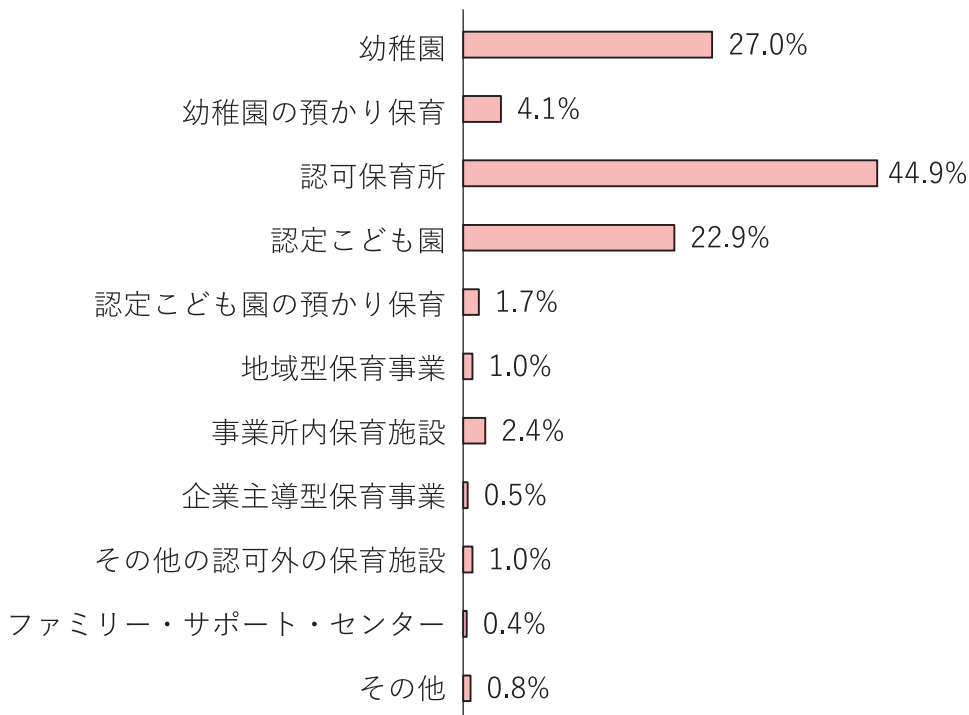
年齢別の集計結果では、「平日の教育・保育の定期的な利用の有無」については、0歳児で17.1%であったのが、年齢が上がるにつれて利用率が上昇し、3歳では94.6%、4歳、5歳ではほとんど全ての子どもがいずれかの施設を利用しています。また、利用する施設の内訳については、0～2歳では認可保育所、認定こども園が多数を占めていますが、幼稚園の利用が開始となる3歳以降は幼稚園の利用が増え、3歳、4歳では認可保育所の利用が幼稚園よりやや多いものの、5歳では認可保育所と幼稚園の利用率がそれぞれ39.2%、37.8%と同程度の利用率となっています。

なお、前回のアンケート調査では、4歳以上では幼稚園の利用が保育所より多くなり、5歳児では58.3%が幼稚園、39.9%が認可保育所を利用していましたが、5年間で認定こども園の整備が進んだことから、幼稚園の利用に代わり認定こども園の利用が促進されたと推察されます。

◆ 利用の有無【N=1,701(就学前)】

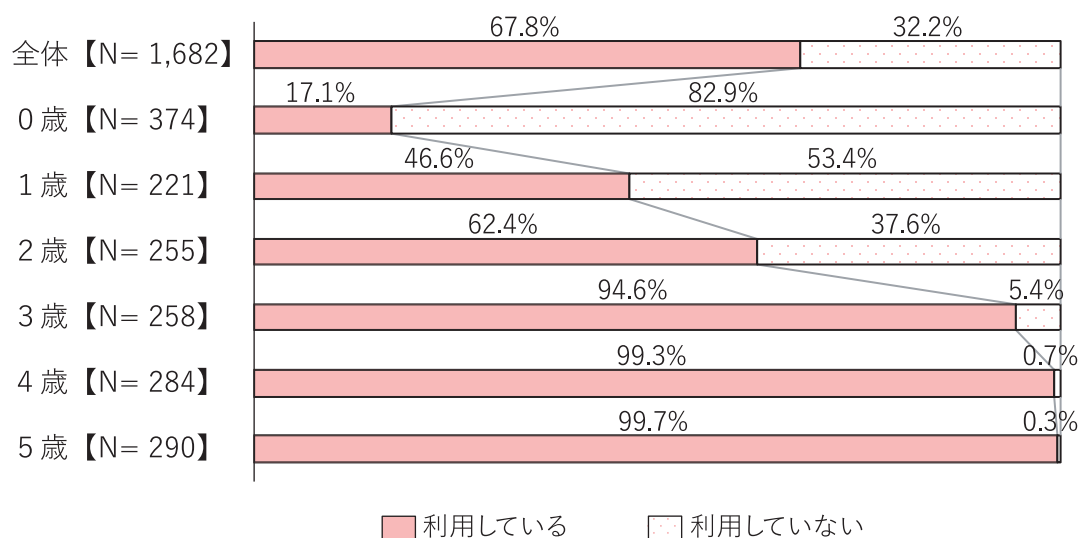


◆ 利用している事業【N=1,149(就学前)】



第2章 津市の子どもと子育て家庭を取り巻く現状

◆（年齢別）利用の有無 【N=1,682（就学前）】



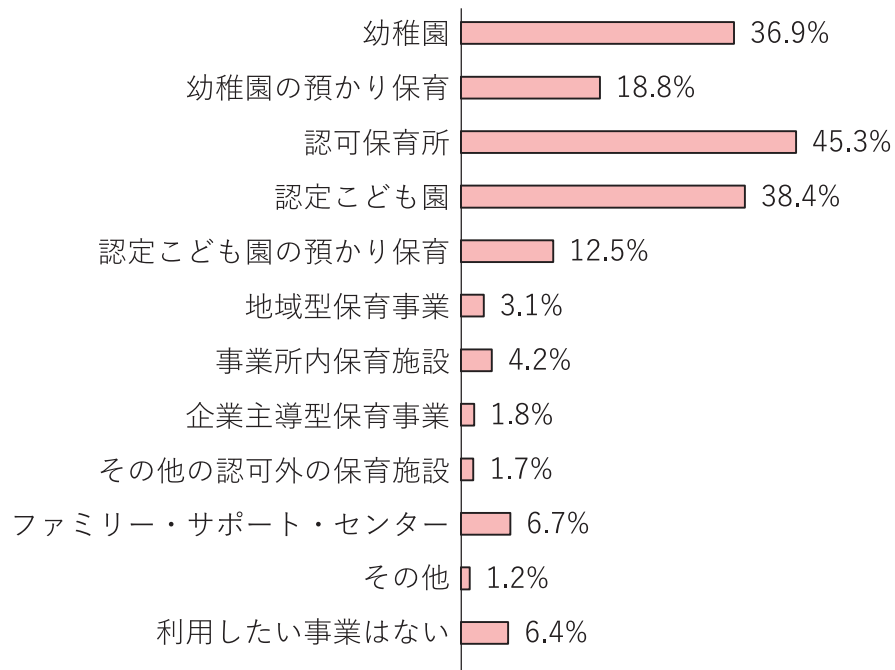
◆（年齢別）利用している事業 【N=1,135（就学前）】

	N	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育所	認定こども園	認定こども園の預かり保育	地域型保育事業	事業所内保育施設	企業主導型保育事業	その他の認可外の保育施設	ファミリー・サポート・センター	その他
全体	1,135	27.2	4.1	45.1	22.4	1.7	1.1	2.5	0.5	1.0	0.4	0.7
0歳	64	3.1	1.6	43.8	28.1	-	3.1	14.1	3.1	-	1.6	3.1
1歳	103	1.9	1.9	64.1	23.3	1.0	1.0	4.9	1.0	1.9	1.0	1.0
2歳	157	10.2	2.5	56.7	24.2	1.9	2.5	1.9	0.6	1.9	-	1.3
3歳	244	33.2	2.9	40.2	24.6	2.0	0.8	1.6	0.8	1.6	0.8	0.4
4歳	281	35.6	3.9	42.3	19.6	1.8	0.7	1.1	-	0.4	-	0.4
5歳	286	37.8	7.7	39.2	20.6	1.7	0.3	1.4	-	0.3	0.3	0.3

② 平日の定期的な教育・保育事業の利用意向

「現在の利用の有無に関わらず、今後利用したいと考える事業」は、認可保育所が最も多く、次いで認定こども園、幼稚園となりました。前回の調査では、幼稚園54.7%、保育所51.9%、認定こども園7.1%の順でしたが、5年間で認定こども園の整備が進んだ結果、認定こども園の利用を希望する人が大幅に増加しました。

◆ 希望する事業【N=1,605(就学前)】（複数選択可）（年齢未記入者を含みます。）



◆ 年齢別集計（希望する事業）【N=1,587（就学前）】

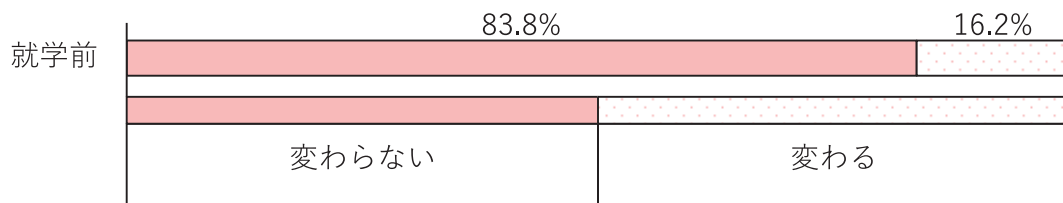
	N	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育所	認定こども園	認定こども園の預かり保育	地域型保育事業	事業所内保育施設	企業主導型保育事業	その他の認可外の保育施設	ファミリー・サポート・センター	その他	利用したい事業はない
全体	1,587	37.1	18.8	45.4	38.1	12.5	3.1	4.2	1.8	1.8	6.7	1.3	6.4
0歳	367	40.3	17.2	59.9	48.5	15.3	7.1	6.3	2.2	2.2	8.4	0.5	1.9
1歳	210	42.4	22.4	46.2	49.0	16.2	2.9	4.8	1.9	2.4	9.5	3.3	2.4
2歳	235	43.0	19.1	42.1	44.3	11.9	2.6	3.8	0.9	0.9	6.8	1.3	3.4
3歳	243	32.9	16.0	39.1	29.6	11.1	0.8	2.1	2.5	4.1	4.1	0.4	9.1
4歳	260	32.3	19.2	42.3	27.7	10.8	1.9	3.5	0.8	0.4	6.5	0.8	9.6
5歳	272	32.0	20.2	36.8	27.9	9.6	1.5	4.0	2.2	0.7	4.8	1.8	12.5

③ 幼児教育・保育の無償化の影響

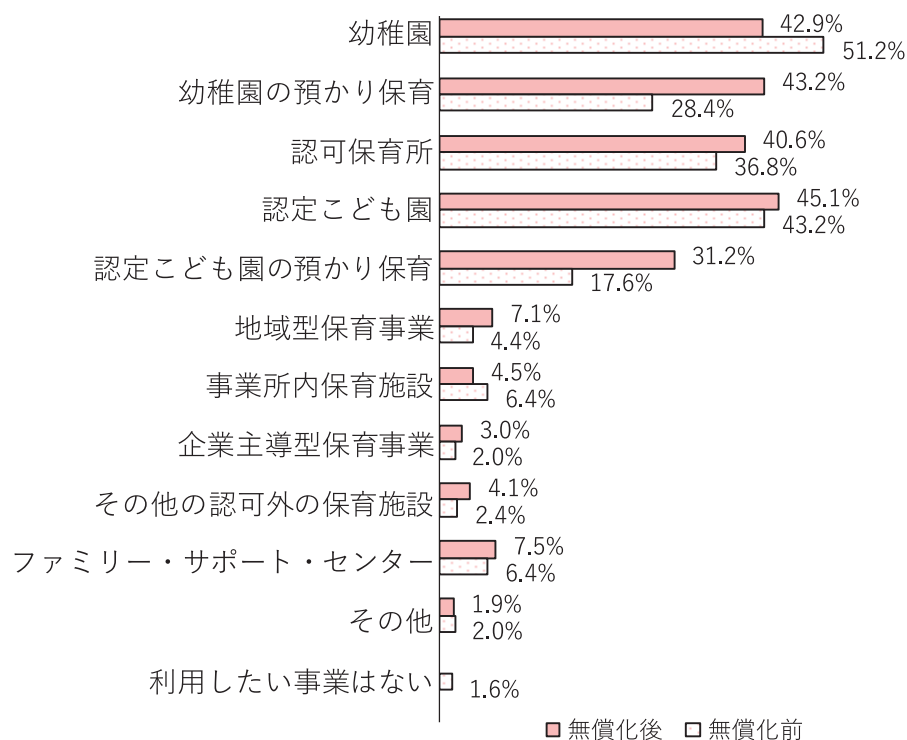
令和元年10月より開始する幼児教育・保育の無償化が、利用したい事業を選択する際に影響するかを聞いたところ、施設の選択は変わらないと回答した家庭は83.8%でした。

さらに、施設の選択が変わると回答した家庭においては、無償化後に利用したい施設として、幼稚園の預かり保育や認定こども園の預かり保育を希望する割合が増加しました。

◆ 無償化による事業の選択への影響【N=1,656(就学前)】



◆ 変わると選択した人の利用したい施設【N=266(無償化後)、250(無償化前)】

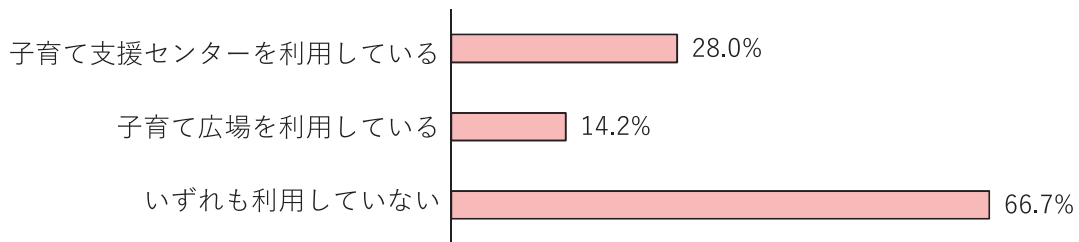


(6) 地域子ども・子育て支援事業の利用

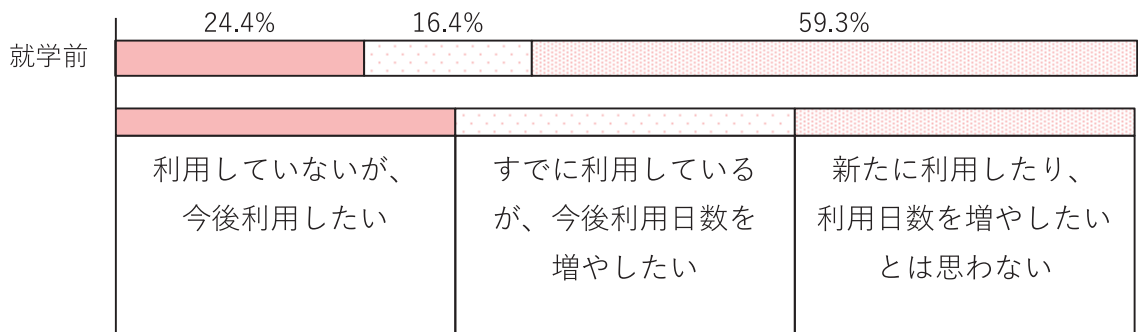
① 地域子育て支援センター

未就学の主に0歳から2歳までの子どもを対象に、親子が相互に交流でき、また子育ての相談を行うことができる地域子育て支援センターや子育て広場を33.3%の人が利用していると回答しました。また、今後の利用意向として「利用したい」、「利用日数を増やしたい」と回答した人は、40.8%でした。

◆ 現在の利用状況【N=837(0～2歳)】



◆ 今後の利用意向【N=813(0～2歳)】



② 子どもが病気の際の対応

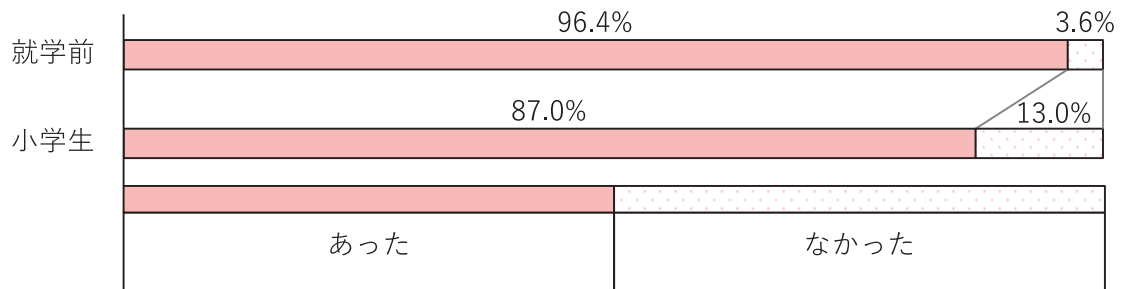
子どもがいつも利用している教育・保育事業を、病気やけがで休んだことがあったと多くの家庭が回答しており、就学前児童の家庭では96.4%になりました。

また、その際、母親が仕事を休んで対処したと回答した家庭が最も多く、父親が休んで対処したと回答した家庭も就学前児童では22.6%になりました。

さらに、休んで対処した家庭のうち、病児・病後児保育施設の利用を希望した割合は、就学前児童では28.6%、小学生児童では17.7%でした。

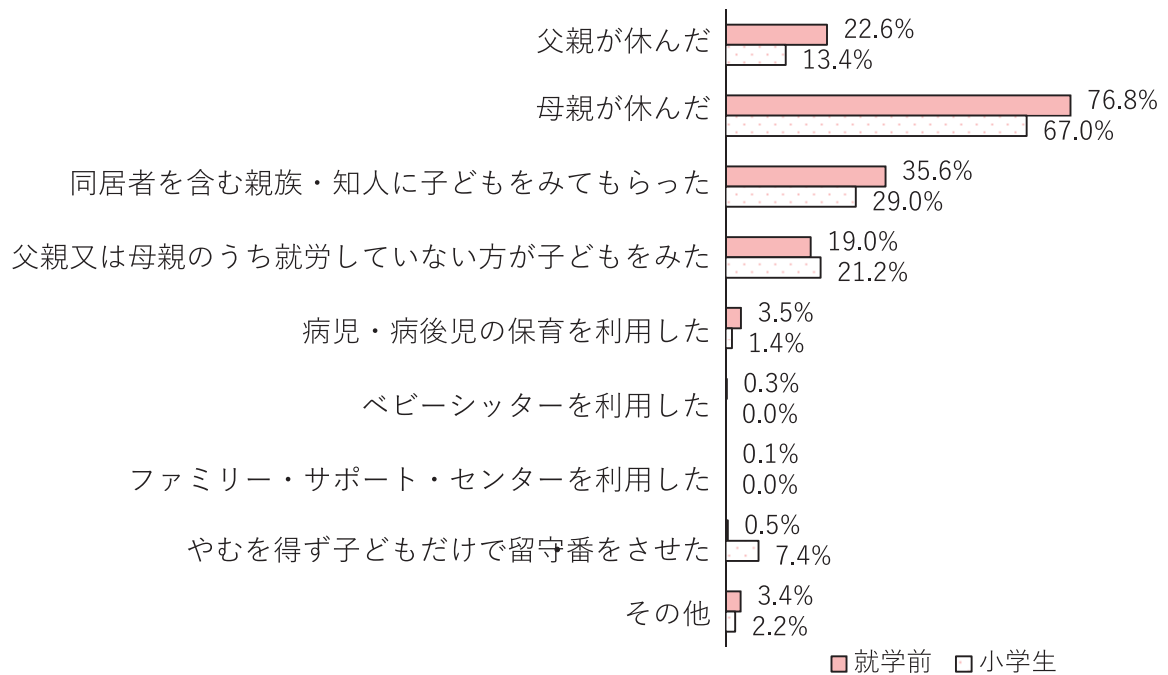
◆ 保育所等の就学前施設や学校を休んだことの有無（就学前児童、小学生）

【N=1,127(就学前)、1,623(小学生)】



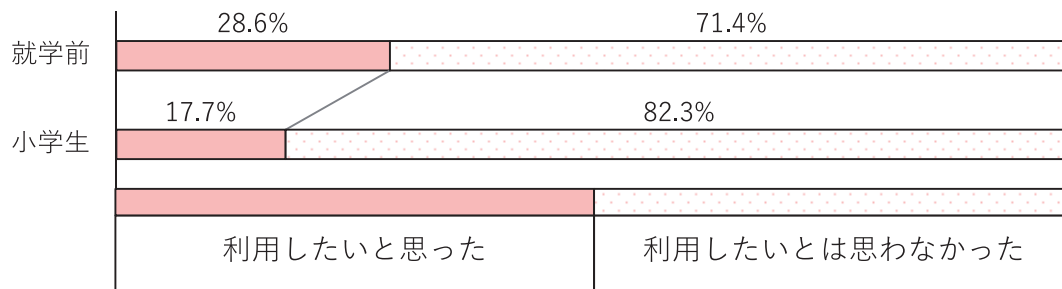
◆ 子どもが保育所等を休んだ際の対応（就学前児童、小学生）

【N=1,074(就学前)、1,399(小学生)】



◆ 父母が休んで対応した際の病児・病後児保育の利用希望

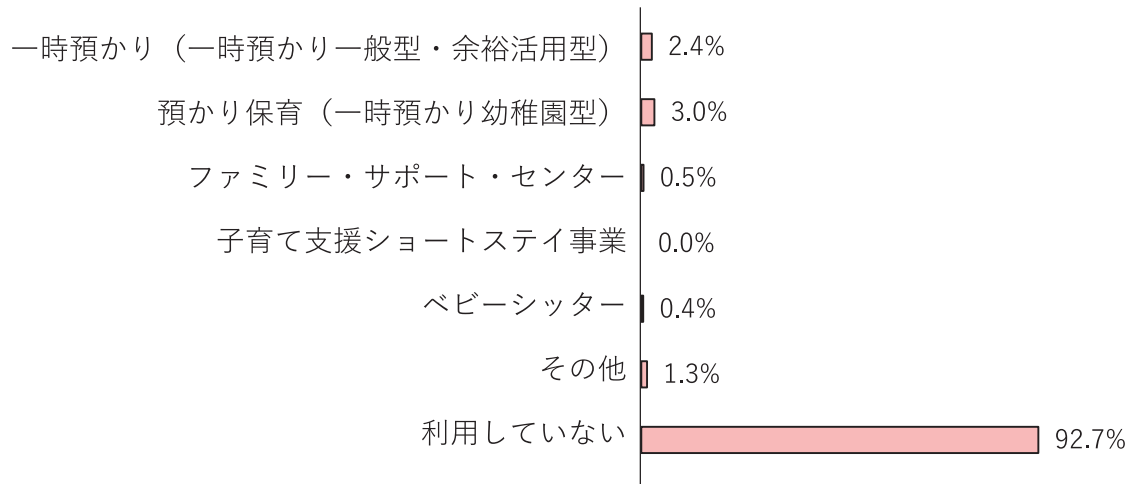
【N=833(就学前)、928(小学生)】



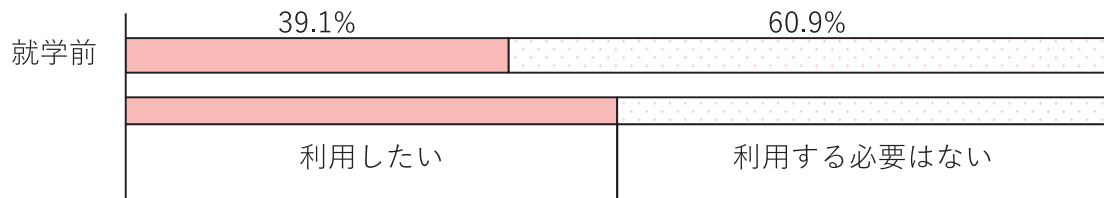
③ 一時預かりなど不定期の事業

一時預かり事業などの事業については、39.1%の家庭が利用したいと回答しているものの、実際にはほとんどの家庭で利用に至っていません。（就学前児童の家庭のみ質問）

◆ 不定期の事業の利用状況【N=1,641(就学前)】



◆ 不定期の事業の利用意向【N=1,649(就学前)】

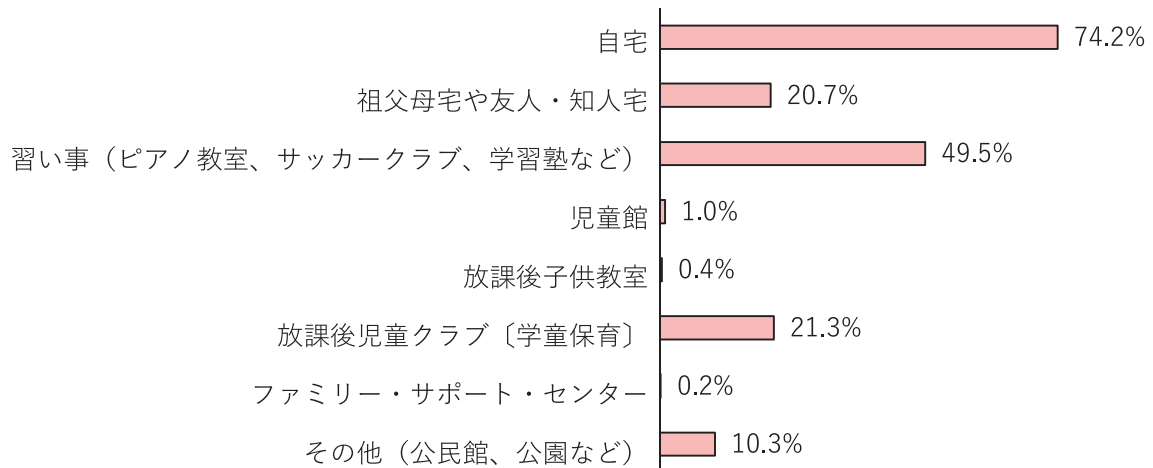


(7) 小学生の放課後の過ごし方

① 現在、放課後を過ごす場所

現在の小学生が放課後を過ごす場所については、「自宅」が最も多く、次いで「習い事」、「放課後児童クラブ」と回答がありました。

◆ 現在、放課後を過ごす場所【N=1,649(小学生)】



② 今後、放課後を過ごさせたいと思う場所

現在5歳児の子どもが小学生になった際、低学年（1～3年生）のうちに過ごさせたい場所としては、現在の小学生と同様に「自宅」が最も多いものの、次いで「放課後児童クラブ」が多く、「放課後児童クラブ」や「放課後子供教室」を回答した家庭は、合わせて51.2%となりました。

◆ 今後放課後を過ごさせたいと思う場所（1～3年生）【N=490(就学前)】

